

human

No 257

2013 / 9

医療を通じて人ととのふれあいを広めるために
ヒューマン(人)と名付けました。



「復興支援(福島の桃)」

救急指定・労災指定病院 **さくら総合病院**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-129
(0587) 95-6711(代)

老人保健施設 **さくら荘**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-96
(0587) 95-6722

訪問看護ステーション **あすかビレッジ**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)
(0587) 95-8623

ヘルパーステーション **あすかビレッジ**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)
(0587) 95-8026

居宅介護支援事業所 **あすかビレッジ**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-10(太郎と花子内)
(0587) 95-8027

デイケアセンター **御 獄**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-129(さくら総合病院2F)
(0587) 95-8900

有料老人ホーム **太郎と花子**

愛知県丹羽郡大口町新宮1-10
(0587) 95-0111



<http://www.ijinkai.or.jp>

E-mail:info@ijinkai.or.jp

塞翁が馬

パート2

副院長・総合内科・ICU部長 加藤千雄

昨年の赴任時、一筆書く
ような依頼を受け、自己紹介を兼ねて自身の生き方や考え方について、小学生の大好きな故事、「塞翁が馬」をタイトルに小文を記載しました。そこでは、これまで横紋筋融解症、深部静脈血栓症や腸閉塞、骨折や肩や膝の靭帯損傷などで入退院を繰り返したにも拘らず、そのお蔭で一杯勉強が出来、病気や怪我も考え方一つと、幾多の困難もプラス思考で考えることが大切であると確信したことを振り返りました。

でもそれは実は良いことに繋がり、良いと思ったことがその後悪いことに繋がる、世の中何が禍福をもたらすか分からないと教えている故事です。しかし、この故事成語は、最後には良い結果に落ち着いて話が終わっていることをなぜか強調していません。馬が逃げ出して、別の馬を連れて帰り、息子が怪我をして、でも息子は戦情けないかな、小中学生時代は越境し学区外の小学校、中学校に通い、バス解釈で中国の偉いさんに怒られるかもしれないけれど、小生は、運不運に喜一憂せず、幸福な時に感謝の気持ちを忘れず、その原著は皆様もご存じの通り、悪いことが起き

不幸な時にもプラス思考で諦めないこと、最後はハッピーエンドになるんだと言うこの結論こそが大切だと考えています。

「塞翁が馬」にあてはめ

これまでの人生を振り返ると、先に述べたような体調不良や親を早くに亡くしたことなどは些細な出来事で、それ以外の殆ど全てが幸せな時間でした。

自分ひとりで何かを成しめた事は何一つない小生は、今まで生きてきた50余年、人に感謝せずに過ごせる日は一日たりともありません。

小生が研修した名古屋第二赤十字病院は、当時東海地区で唯一無二の不整脈専門病院で、偶々そこで初期研修を受けた故に

終生のライフワークが見つかりました。現在も国際有数の不整脈治療センターとして活躍している同院では、当時の循環器部長が、副院長、院長へと昇進され、彼のお蔭様で運よく退職後も非常勤として継続雇用して頂く機

れに多くの入学金や授業料を負担させました。人並み以上の家庭環境に恵まれていたお蔭で成人することができました。親の力だけでは到底医者にはなれませんでした。親には感謝しています。

医者になつた後も、多くはなれませんでした。親の上司に恵まれました。小生が研修した名古屋第二赤十字病院は、当時東海地区で唯一無二の不整脈専門病院で、偶々そこで初期研修を受けた故に

会に恵まれ、この3月まで28年間勉強させて頂きました。大学帰局時の主任教授は、日本循環器学会総会で会長を務めた大物で、色々なところから仕事をもらつてきてくれ、大学に帰局したすぐ後に日赤での実績を買われ当大学を国内初のアブレーーション治療施設の一つに指定するよう働きかけて下さり、当時非常に荷が重かつたことを覚えています。当時の助教授は非常に気さくで人間味溢れる上司で、学位論文の指導を頂き主任教授となられ退官された今も、学会などで会うと勤務医になつた後の小学生を心から心配してくれています。今から思うと、幸せばかり、感謝する方たちばかりでした。

そんな恵まれた環境で生きてきたなかでさらにつかが悪いことに小生は、

学生時代から塾の講師や家庭教師をしていましたので、未成年の頃既に親ほど年の離れた方々から“先生”と呼ばれています。その言葉の本当の意味が全く分からないま月日が経ち、医者になつてからももちろん、患者様からも上司からも“先生”と呼ばれるようになります。“先生”は我々に対する、単なる二人称なんだと、その本当の意味を忘れていました。さくら総合病院に赴任した後も幸運にも部長職、副院長職を拝命し、大きな組織で上から数えて何番目かの大役を頂きました。しかしそのお蔭様でようやく“先生”と呼ばれることがの重さを改めて実感することとなりました。

対応可能です。そんな環境で、医者に対し患者様ばかりでなく他の職種の方が我々を立てて下さるのは当然かもしません。院長に対し、皆様が頭を下げて下さるのは当然かも知れません。でも、人の上に立つたこんな環境だからこそ今改めて自問自答することが出来ました。本当に自分は彼らより偉いのか、皆より優れているのか、上から目線で話したり、ましてや怒鳴ったりすることが許されるのか、と。もちろん、そのどれもが“否”でしょう。“先生”と呼ばれる人は、常に謙虚な人格者であり、それに足る責任を負い、どんな状況であろうと冷静に行動し、一方“先生”と呼んで下さる方々は、我々の人格を信じているから、そう呼んでいるはずです。

医療現場は一人では何も出来ません。限リある自分一人の能力を自覚し、組織の中で個々人の長所を認めつつ夫々の持つ力を引き出し、チームをまとめ、チームとして最善の結果を導き出すことが“先生”的仕事だと、神様が与えてくれたこの環境に立った今、確信することが出来ました。

この場に赴任して10ヶ月が経ちました。この重責を頂いたことで、今一度“塞翁が馬”を座右の銘に、自分とその周りの全てがハッピー・エンドに繋がると信じて、今の自分におごらず、常に人とものと神様仏様に感謝する気持ちを忘れずに、これからも生きていきたいと考えています。



循環器内科 松崎 照正

はじめまして。7月からさくら総合病院循環器科へ入職した松崎照正と申します。現在、循環器疾患については、加藤副院長、久原ハートセンター長、丹羽副ハートセンター長の御指導の下、外来、入院患者様の管理、カテーテル検査・治療、維持透析の管理などを行っております。また、救急対応についても、山下及び小林両副院長に御指導の下、担当させていただいております。

今回、入職に当たり、自己紹介を兼ねて、なぜ両方の科を兼任しているかについて書こうと思います。

まず、循環器科の仕事については、皆様にどのようなイメージがあるかわかりませんが、内科の中では外科的な要素が多く、緊急性の高い疾患が多い科です。普段の外来では、高血圧、高脂血症の管理などまたたりしている印象があるかもしれません、急性冠症候群などでは1分1秒でも早く治療にあたることが、患者様の生死を決めることがあります。

(そのため、一種の職業病なのか、そのような性格の人が集まる科なのかわかりませんが、循環器科の医師は感情的になりやすい人が多い傾向にあるようです。ただ、さくら総合病院の循環器科の諸先生方は、非常にジェントルな先生方ばかりですので、お気軽にのんびり相談してください。)話は逸れましたが、そのようなこともあり循環器科と救急科は切っても切れない関係にあるため、両科での業務に当たらせていただいております。

また、これは個人的なわがままなのですが、元々、私は救急外科医になりたく医師を目指しました。しかし、専門分化が進んだ現代の医療では、救急科で治療を完結することが難しく、基本的に重症疾患は救急受け入れた後に、専門家に引き継ぐことが必要であることが多く、欲張りな私としては、初めから最後まで治療したいため、循環器科を基礎として、両科を併任させていただいております。

まだまだ、未熟な点も多々あり、ご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願ひします。



第28回 「健康を守る教室」

テーマ：『がんと食事の関係性～食生活を見直してみよう～』
&セラバンドを使用した体操

日 時：平成25年9月28日 土曜日
13:00～14:00 (受付12:30～)

場 所：新館1F ロビー

講 師：栄養士 藤川 奈々

参 加 料：無料

お問合わせ：受付窓口もしくは医療連携室

Tel 0587-95-0015



がんと食事の関係について考えたことはありますか？

がんは遺伝や年齢だけでなく糖尿病や高血圧と同じように生活習慣や食生活も関係しているといわれています。普段の何気ない食事にも、がんのリスクが潜んでいます。

今回は、食習慣に視点を置き、がんと食事の関係についてお話しします。また、がんだけでなく様々な病気の予防のためにも、一度、ご自身の食生活を見直してみてはいかがでしょうか。

是非、皆様お誘いあわせの上、お気軽にご参加してください。

※健康を守る教室の体操コーナーでおなじみのセラバンドを健康教室終了後に下記価格で販売をいたします。

ご希望の方はお申し出下さい。 黄色(弱)400円 緑色(中)460円 青色(強)520円

月去り星は移るとも——惜別の辞

用度課 丹羽 敬忠

この6月、わけあって永年住み慣れた大口町を離れ、岡崎市に居を移した。「歴史と文化の街」というキャッチフレーズのこの街、山紫水明、まこと私にとっては終の棲家(ついのすみか)として格好の地である。

ところが、この「さくら総合病院」への通勤時間が約2時間、これは往復を読書の時間と決め込んでいるものの、70過ぎの私にとってチトきつい。それに、与えられたミッションもほぼ完了した。そんなことからこの9月10日をもって退職することにした。

思えばこの病院には12年近く、コンドル館B棟が出来たばかりのころからご厄介になった。私のみならず、父も母も入院してお世話になり、とりわけ母は「さくら荘」を含め、7年間お世話になった。

私自身、入職後、総務課を経て車輛課へ。ここでは車椅子専門の患者さんの送迎、加えて経理課職員の銀行送迎を担当させていただいた。今でも、待合室で懐かしい患者さんから声をかけていただく方も少なくない。有難いことである。インフルエンザの出張予防接種のため、地域内の事業所を訪問したことも懐かしい。そして現在の用度課。わがままな職員だったと思うが、好きな歌舞伎について書いたり話したり、そのための休暇を快く与えていただき、おかげで、今年で4年目を迎えた早稲田大学の集中講義、地元愛知江南短大の、2年目になったオープンカレッジの講座、この秋にも行くことになった中国大連大学での講義と、随分やんちゃを言い、その都度課長はじめ皆さんにはご迷惑をかけたと思う。

humanに5年間「さくら雑記帳」を書かせて貰ったことも記憶に残る期間だった。院長先生からは序文をいただいて冊子にまとめることが出来た。御嶽でも3~4回、利用者さん向けに話す機会も頂戴した。

思い起こせば懐かしさで一杯である。人生の最後に近いこの12年間、「さくら総合病院」でお世話になったことは私にとって生涯の金字塔になるだろう。皆さまに大変お世話になりました、ごきげんよう。そして「さくら総合病院に栄光あれ」、有難うございました。

ごあいさつ

太郎と花子・施設長付事務 前田 彩花

大学卒業後金融関係で3年勤めた後、転職しました。医療福祉関係は全く未経験で、最初は果たして私に務まるのかと、とても不安でした。今まで聞いたことのない専門用語が沢山あり、しばらくは辞書で薬の名称や意味を調べる日々が続きました。施設内が広く何度も迷子になったり、入居者様の顔と名前が一致しなかったりと、全てにおいて右も左もわからない状態でしたが、先輩方のご指導もあり何とかやってきました。

食事配膳のお手伝いをしていると、「前田さんが来てくれるのを待ってたよ」と言ってくださる入居者様もいらっしゃり、とても嬉しく思います。なるべくお声かけを沢山し、もっと入居者様とコミュニケーションをとり、皆様に名前や顔を覚えていただけるように今後も取り組んでいきたいと思っています。

卷之三

平成25年9月1日現在

*1 休診日あり *2 祝日診療あり(9:00~11:00)

※3 外傷セシターハンマ診療

● 第1・3週のみ10:00～12:00まで診療、第2・4・5週は外傷センターにて診療
● 診療時間は、診察科目により異なります

ご不明な点がある場合は、職員にご確認ください
診断日が変更になる場合があります。ご了承ください。

機関紙 発行 医療法人 医仁会 電話 0587(95)6711(代)
human ヒューマン さくら総合病院 発行年月日 2013年9月1日
※ 仁川 市 桜川町

行 医療法人 医仁会 電 話 0587(95)6711
さくら総合病院 発行年月 2013年9月1日

No.257

丹羽郡大口町新宮1-129